

上江津湖の野鳥の季節変化と環境Ⅱ

熊本マリスト学園中学校 3年 サイエンス部 鳥班

1 はじめに

熊本市の水前寺江津湖に多くの野鳥が飛来するので、昨年と同様に毎月1回の調査を行った。どんな種類が飛来するか、季節変化などを調べた。江津湖は広いので上江津湖のみ調査した。毎年同じ種類の鳥が来るか、季節変化には周期性があるかに注目した。また、今年も昨年に発見したアオサギの生活について調べ、江津湖の環境について考えてみたいと思った。

2 研究の目的

上江津湖における野鳥の種類と飛来数、季節変化等調べ野鳥を通して上江津湖の環境を考える。

ア 上江津湖には毎年同じ種類の野鳥が来るのか。

イ 野鳥の季節変化に周期性があるのか。

ウ 昨年見つけた足を怪我したアオサギはどのような生活をしているのか。

3 研究の方法

調査は、2013年11月～2015年9月まで月1回、午前8:30～11:30の間に上江津湖の決まったルートを歩き、双眼鏡と望遠鏡で約2～3時間の観察を行った。確認された野鳥の種類と数、その鳥のいた環境を記した。2014年に見つけた足を怪我したアオサギについては、2015年10月3日と10月17日の二日間、述べ6時間観察した。

4 結果と考察

2年間調査した結果、計59種類の野鳥を観察できた。昨年に見られたほとんどの種類の鳥を今年も見ることができ、数が飛来する鳥の季節変化は大きくは変わらなかった。

水鳥としては、カモ類10種類、サギ類7種類、シギ類4種類、クイナ類3種類、セキレイ類4種類などが見られた。カモ類の中では、ヒドリガモが昨年も今年も11月から4月に多く見られた。ヒドリガモの観察ピークは、昨年は1月だったが、今年は2月だった(図1)。2014年の6月と9月には越夏個体が見られるなど、少しの変動はあるが、基本的には周期性があると考えられる。また、シギ類は全体的には数は少ないが、2015年の7月にはイソシギが大幅に増えていた。クイナ類では、オオバンが増えバンが少し減っていた。オオバンでは2014年は3月に一番多く見られたが、2015年のピークは2月だった。セキレイ類ではセグロセキレイが冬によく観察された。ハクセキレイは2年目の冬には減少していた。サギ類はアオサギ、コサギなどいつも見られるものもいるが、その他は増減が激しかった。鳥によって違いはあるものの、上江津湖に来る鳥には周期性があると言える。

足を怪我したアオサギは、昨年見つけた1羽に加え、もう1羽観察された。昨年見つけた個体Aは、中之島の浮島付近を行動圏としており、今年見つけた個体Bは午前中同じところにいたが、その後いなくなった。足を怪我していないアオサギも近くで数羽みられ、それぞれが互いの行動圏に入らないようにしているようだった(図10)。聞き取りによると、個体Aは、毎日のように釣人から餌をもらっているようだ。アオサギの近くまで行って観察したが、逃げようとしなかったことから人に慣れていると考えられる。江津湖は、アオサギにとって自然な環境とは言えないようだ。

図1 カモ類の季節変化

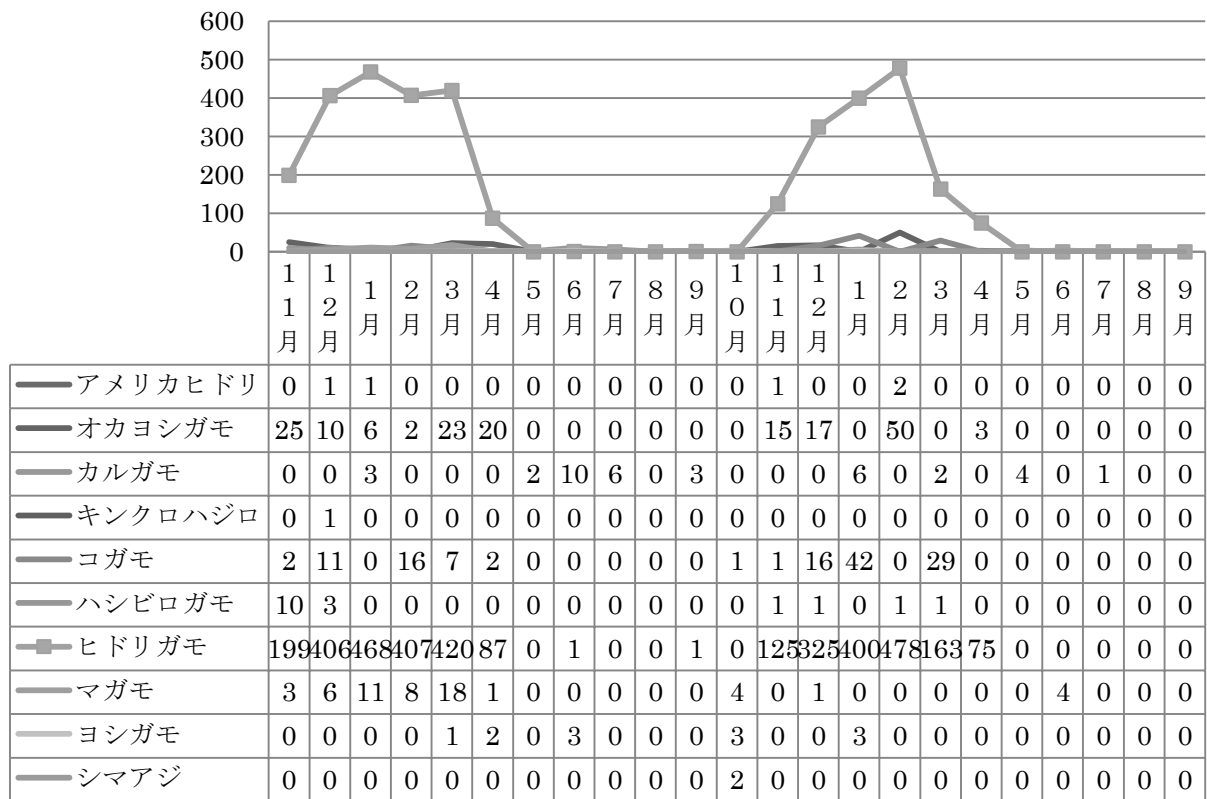


図10 アオサギの行動圏 (2015年 10/3, 10/17)

